

# エルサルバドル政治経済月報

(2018年12月分)

2019年1月  
在エルサルバドル大使館

## [大使館のビジョン]

エルサルバドルとの友好親善関係を増進し社会発展に貢献しながら日本の国益と国際公益の向上を目指す。

## [大使館のミッション]

1. 日本の平和や繁栄を守るための外交政策の構築と実行。
2. エルサルバドルの世論に働きかける広報・文化事業の推進。
3. 在留邦人の生命と財産の保護，日系企業の活動支援。
4. 政治経済情報の収集・分析。
5. 自立的かつ持続的な開発への協力。
6. 服務規程を遵守し，風通しの良い職場環境の維持。

## 内政

### 1. 最高裁憲法法廷判事の任命

21日，ラウル・エルネスト・メララ・モラン氏を次期検事総長に任命する人事案が国会で可決された。メララ次期検事総長の任期は2019年1月6日～2022年1月5日までとなる。

### 2. 2019年度予算案の可決

21日，2019年度予算案（67億ドル（8億ドル償還含））が国会で可決された。

## 外交

### 1. 中米北部3カ国のための統合的開発計画合意文章への署名

1日，ロペス・オブラドール墨大統領就任式に出席したオルティス副大統領は，同墨大統領，モラレス・グアテマラ大統領，エルナンデス・ホンジュラス大統領と共に，不法移民を抑止し，不法移民を発生させる構造的問題の解決に取り組むための「中米北部3カ国のための統合的開発計画」の合意文書に署名した。

### 2. サンチェス・セレン大統領の第52回SICA首脳会合出席

14日，サンチェス・セレン大統領は，ベリーズで開催された第52回中米統合機構（SICA）首脳会合に出席した。

### 3. Ou Jianhong 在エルサルバドル中国大使の信任状奉呈

17日、Ou Jianhong 在エルサルバドル中国大使は、サンチェス・セレン大統領に信任状奉呈を行った。サンチェス・セレン大統領及びOu Jianhong 在エルサルバドル中国大使は信任状奉呈式典後、8月21日に樹立されたエルサルバドル中二国間関係及び両国国民の裨益につながるテーマに関し、意見交換を行った。

## 経済

### 1. 再生可能・クリーンエネルギー電源構成の増加

当国政府は再生可能・クリーンエネルギー発電による電源構成が全発電の63.7%に達し、2018年の総発電容量は2,084.5メガワットとなり、2014年から31.4%増加した旨公表した。また、2019年-2021年までに、風力、太陽光及び天然ガスの発電所が建設される予定であり、右発電容量は642.2メガワットとなる見込みである旨公表した。

### 2. 手続主義排除法及び規制改善法の可決

国会は通商促進のために「手続主義排除法」及び「規制改善法」を可決した。「手続主義排除法」は行政機関における手続の迅速化を目的としており、行政機関による不当・不必要な手続を監視する「障害排除機関」が設立される。右機関は政府、最高裁及び民間セクターの代表1名から構成される。

「規制改善法」は行政機関における現行手続の見直し・改善を行うことを目的としており、適切な改善を行うために「規制改善機関」が設立される予定。

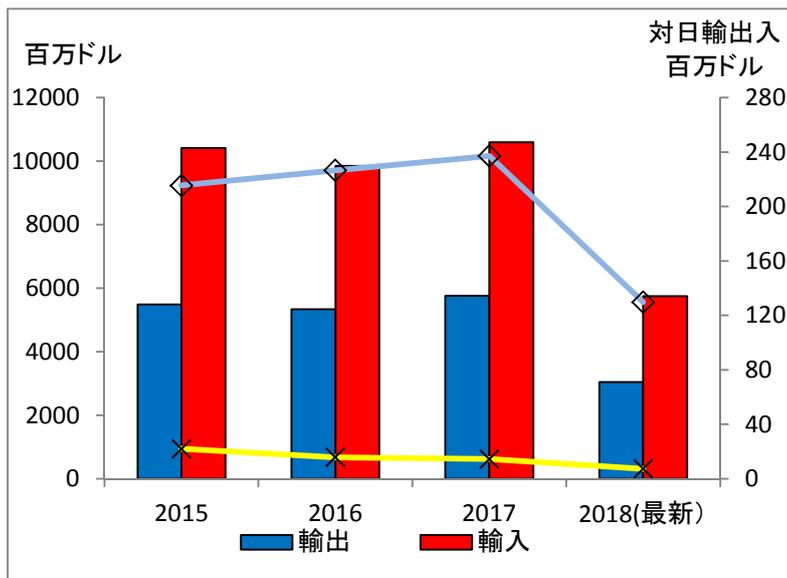
### 3. 地上デジタルテレビ本放送開始式典の開催

21日、当国政府はアナログ放送から地上デジタルテレビ放送への正式移行を開始する「地上デジタルテレビ放送開始式典」を開催した。同式典において、コト電気通信監督庁(SIGET)長官は、まずは当国中心部と西部において地デジ放送が開始され、その後、東部に広がっていくことを説明し、もし2022年までに地デジ放送が十分に国民をカバーできれば、2022年にアナログ放送を停波する旨述べた。

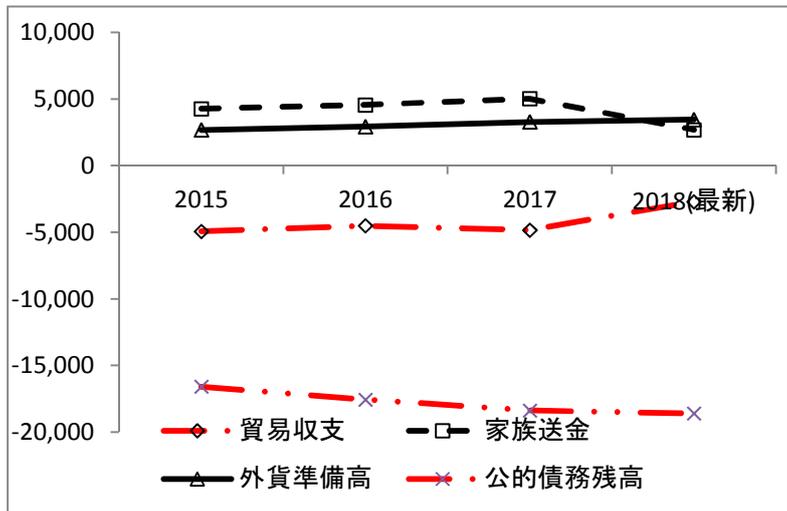
当国は2017年に地デジ日伯方式の採用を正式発表し、これまで日本総務省が同分野における協力を行ってきた。

### 4. 国債格付会社S & Pによる当国国債格付の引上げ

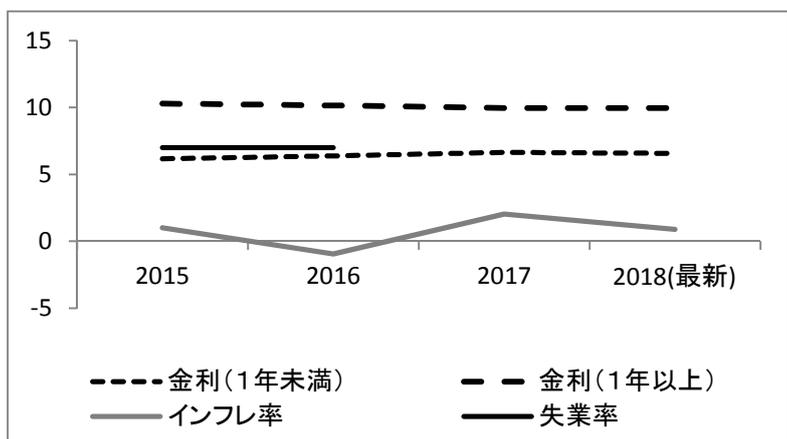
29日、国債格付会社S & Pは当国国債格付をCCC+からB-へ引き上げた。同社は、国会による2019年予算の可決、及び、その予算に借款償還の予算が組み込まれていたことを右格付引上げ理由として公表した。



・2018年7月までの輸出額は30億4,792万ドルとなった。輸入額に関しては、57億5,225万ドルとなり、貿易収支は27億433万ドルの赤字となった。



・2018年6月までの家族送金額は26億8,800万ドルとなり、前年同月比で9.3%増加した。その内25億1,080万ドル(93.4%)が米国からの送金であった。



2018年6月のインフレ率の上昇率は前年同月比0.9%となった。

## 治安

### 【主要事件・報道】

1. 当地主要紙の報道によると、12月の殺人件数は263件、2018年1月から12月末日までの殺人件数は3,340件となり、前年同時期と比べると約16%減少(2017年同時期よりも622件減)。10万にあたりの殺人件数は50.3件となり、前年よりも10ポイント減少した。
2. 12月12日付、当地主要紙の報道によると、2018年において行方不明者数が殺人件数を上回り、12月7日時点で、殺人件数3,151件、行方不明者数3,382件となっている。殺人件数自体は減少傾向にあるものの、報道でもありとおり、連日、行方不明者の遺体が白骨化した状態で土の中から発見されており、必ずしも治安が改善されているとは言えない状態である。今後も治安情勢を注視していく必要がある。
3. 12月19日付、当地主要紙の報道によると、公共路線バス内にて、玩具の拳銃を使用し乗客の所持品を強奪しようとした犯罪者が、乗客が所持していた拳銃にて射殺される事件が発生した。公共路線バス内での窃盗や強盗被害が多く発生しているが、その対抗手段として、護身用の拳銃を所持している乗客も多く存在していることから、直接的な犯罪被害のターゲットにならずとも、犯罪被害に巻き込まれる可能性が十分あるため、移動の際は、公共路線バスの利用は避け、ラジオタクシー又は自家用車を利用する等、注意する必要がある。
4. 12月21日付、当地主要紙によると、2018年において、犯罪組織との銃撃戦や勤務時間外での襲撃等で、警察官が31名、軍人が13名、中央刑務所の看守3名、警察学校の士官1名が死亡した。
5. 12月21日付、当地主要紙によると、2018年における犯罪歴のある強制送還者数は、5,107名となった。そのほとんどが、米国やメキシコからの強制送還者であり、そのほとんどが当国に入国後、犯罪組織に吸収されていく傾向があることから、治安の悪化が懸念されている。

### 【主な邦人居住地区及び観光地治安情報】

1. 12月中のサンサルバドル市サンベニート地区及びエスカロン地区の殺人発生件数は0件。

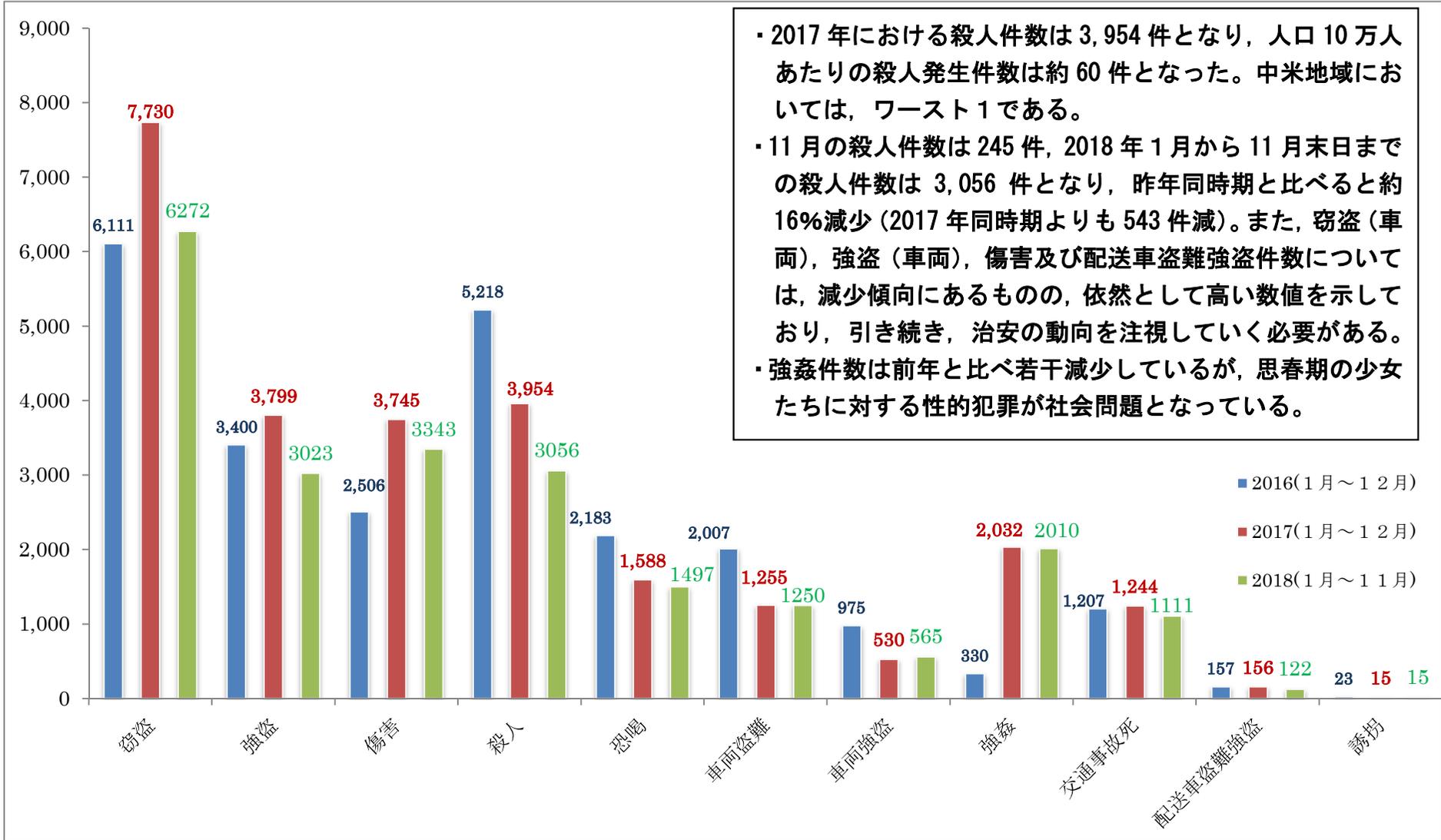
【観光地等における危険度レベル】

レベル1:十分注意区域

レベル2:不要不急の渡航中止区域

国立ダビッドJ・グスマン人類学博物館(MUNA)	サンサルバドル旧市街
ティン・マリノ児童博物館	平生三郎公園
エルサルバドル美術館(MARTE)	サンサルバドル市の動物園
プレシデンテ劇場	プエルタ・デル・ディアブロ
サンサルバドル近郊のゴルフ場	
ベンゴア球場	
サンサルバドル市国立民芸品博物館	
クスカトラン・スタジアム	
サンサルバドル火山	
カフェタロン・フットサルコート	
ラ・リベルタ県のビーチ	
イロパンゴ湖	
サンタテクラ旧市街	
コアテペケ湖	
セロベルデ自然公園	
エル・ピタル山	
ラ・パルマ市	
サンタ・テレサ温泉	
スチト旧市街	
サン・アンドレス遺跡	
タスマル遺跡	
カサ・ブランカ遺跡	
サンタ・アナ旧市街	
オロメガ湖	
エル・ホコタル湖	
サン・ミゲル市	
オロクイルタ市	

**治安統計**  
**主要 11 犯罪（11 月）過去 2 年との同時期の比較**



## 主な大使面談来館者

12月3日 ヒガシマルインターナショナル社：ビジネス推進打合せ

12月5日 天皇誕生日祝賀レセプション

12月8日 都築学園グループ日本経済大学学長：小零細企業庁(CONAMYPE)、大学との提携関係

12月10日 社会経済開発財団(FUSADES) Siman 会長：打合せ

12月12日 安藤ハザマ社：表敬

12月18日 Rourk 氏, 元 COEXPORT 長官他：輸出戦略打合せ

12月20日 総務省局長他：地デジ開始セレモニー

(大使の外出打合せ・訪問件数：26件)